

J Aからも、農民組合からも、「玉津の会」からも……いずれも請願趣旨採択

農業破壊のTPP参加に反対

全会一致で 意見書採択

「農業を考える玉津の会」や「滋賀県農民組合連合会」から提出されていた「TPP交渉に参加しないことを求める請願」は、議会最終日の21日、全会一致で趣旨採択されました。紹介議員である小牧議員は、採決に先立ち、委員長報告に対し「JAから

の請願も含めて趣旨採択すべきとしたが、その趣旨とは何か。請願人の願意は何か。また、TPPが農業に重大な影響をおよぼすだけに農業団体のみなさんが「政府はTPPに参加するな」と訴えているもの。当然採択すべき。趣旨採択した理由は何か」と

問いました。委員長は「TPPが締結されれば、日本農業は壊滅的打撃を受けることから、政府がその交渉に参加しないように意見書を政府に提出してほしいということ、が請願の願意であり、我が国の食料安全保障の確立、農業の持続的

発展の政策の実現にかかる趣旨については賛同できるものの、日本経済全体に大きな影響を及ぼすので、全体を見極めるまで締結してはならないという思いから趣旨採択とした」と答弁しました。民主党の菅政権がTPP

(環太平洋戦略的経済連携協定)参加の動きを強めていますが、締結すれば農業をはじめ地域経済に多大な影響をおよぼすことを懸念したもので、全会一致で請願が採択され、政府に意見書が送付されることは大きな意義があります。

来年2月から実施

予防接種充実

残念ながら 守山市は自己負担あり

- 小児用肺炎球菌ワクチン
0歳児2回・1歳児2回接種
2歳～4歳児 1回接種
- ヒブワクチン
0歳児 3回接種
1歳～4歳児 1回接種
- 子宮頸がん予防ワクチン
中1～高1 2回接種

これまで強く要望してきたヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンや子宮頸がん予防ワクチンが、来年2月から国の財政支援を受けて実施されることになりました。12月議会の追加議案として、接種費用2570万3千円が補正予算化されたものです。しかし近隣の多くの自治体では、全額公費負担で接種を行うことを決めているもの、守山市は1割の自己負担を求めています。小牧議員は、補正予算の議案質疑のなかで、「全額公費で実施すべき」と求めました。

小牧議員は、昨年9月議会一般質問で、市内の小児科医の意見をふまえて、ヒブワクチンに関して、「日本では、1年間で、約千人の子どもが化膿性髄膜炎にかかっていると推計され、その6割以上は、『ヒブ』インフルエンザ菌b型という菌が原因している」として、一日も早い公費による接種を国に働きかけると同時に、市独自でも予防接種するよう強く求めています。今回、ヒブを含めて

3つのワクチン接種に対して、国が積極的な財政支援を講じたことを受け、多くの自治体では、12月議会に補正予算を提案していました。守山市も最終日に追加提案されたものです。しかし、その内容は「1割の自己負担」。県内で自己負担は、野洲など5市だけで、その他は全額公費負担です。小牧議員は、議案質疑のなかで、「定期接種化にむけて、国に強く働きかけられるべきと同時に、保護者がお金の心配なしに、子どもにきちんと予防接種できるようにすることが大事。

守山市でも全額公費負担を」と要望。病気を予防することが、医療費の抑制につながるから、「すこやかまちづくり行動プラン」を策定し、実行しようという守山市の姿勢としても「全額公費負担とすべき」と市の姿勢を質しました。今回の決定では、肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチンは1回1000円、子宮頸がんワクチンは1回1500円の自己負担が必要ですが、実施そのものは大いに歓迎ですが、お金の心配なく予防接種が受けられるよう、引き続き要望していきます。

日本共産党 守山民報

守山市議会議員
こまき一美

TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

党守山市くらし対策責任者
まつば栄太郎

TEL 584-3077
FAX 584-3466